

# 朝を ひらく

その昔、ミケランジェロは言った。「私は大理石の中に天使を見た。石を削ってそれを解き放った」。編集作業とは、まさにこのことを言う。余分なものを排除することによって、大切なものを取り出す作業。情報過多の現代、自分にとって何がより大事なものなのか。多数の瑣末なことから、少数の重要なことを見分ける、この人生の編集力がいま問われている。

人間の脳は、無意識に1秒間に4千億個の情報を処理していることが分かっている。しかし知覚できるのは、わずか2千個

## 人生を編集する

永田 円了  
真国寺住職



の情報。今この瞬間も、人の脳は凄まじいスピードで編集作業をしているということになる。問題は、この作業を意識的に、的確にできるかということである。

母は生前、寺の行事があるごとにノイローゼになっていた。やることは山ほどある。御膳の準備は大丈夫か。本堂の掃除はあれでよかったか。仕事に優先順序をうまくつけられず、頭の中が混乱しうろたえるばかり

であった。

山ほどある日々の生活の中で、本当に重要なものは一つか二つ。時間の制限のある中で、最も重要なものに最大のエネルギーを費やすために、他はできる限り切り捨てる。ただ減らすだけでなく、削除しながらその価値を増やす。舞台上でスポットライトを当てるのは、一番大事なものを提供するために、他を削除しているのである。

「すみません。もっと時間があつたら、もっと短い手紙がかけたのですが」。優れた編集者は、コトバを減らすことにごだわり抜く。それはあたかも絞り抜かれた美しい身体を造るがごとくに。

人生の編集というものは、その人のもつテーマによって決まる。会社中心人間は何よりも会社の利益、おのれの出世を第一に考えて行動する。他のことは、スポットライトの中には入らない。

地下鉄サリン事件からはや20年。現場に居合わせたジャーナリスト辺見庸はその時の様子を次のように語った。月曜日の朝の出勤時、多くの被害者は、苦しんで歩道に横たわっている。その被害者をまたぐようにして出勤を急ぐサラリーマンの姿が多くあつた、と。

何が何より大事なもののなか。いざ事が起こったとき、人は自分の無意識の行動にハッとする。今までの編集テーマが変容し、心のスイッチが入った瞬間、人生の編集作業は佳境をむかえる。

# 何より大事なものの何